

Green Brave

10th Anniversary

AUTOBACS SUPER GT 2022 SERIES

Round 3

#52 埼玉トヨペット GB GR Supra GT

たかのこのホテル SUZUKA GT 300km RACE

2022年5月28日(土)～29日(日) 鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)

■■■■ 2ストップ作戦がズバリ的中。13 台抜きを見せ 4 位入賞 ■■■■

第3戦のレース距離は300km。前戦を欠場した吉田選手が復帰し、川合選手とのレギュラーコンビで出場しました。土曜日(予選日)の天候は晴。公式練習(95分間)は9時35分から行われ、吉田選手がコースイン。硬さの異なるタイヤを試しながら、ピットインのたびに車体を調整します。約1時間走行後、川合選手に交代。川合選手も複数のタイヤで走行し、車体とタイヤの評価を行います。ベストタイムは吉田選手が14周目にマークした1分58秒347(10位)。両選手ともにハンドリングに違和感を覚えており、予選に向けて店舗メカニックがサスペンションのセッティング変更を行いました。

Q1(A組)のドライバーは川合選手。川合選手はシグナルの合図とともにコースイン。入念にタイヤを温め、4周目からアタックを行います。川合選手は午前中のベストタイムを上回る、1分58秒059(7位)をマーク。しかし、8位以上がQ2進出となるため、次のアタックでタイムを更新しなければ、ノックアウトの可能性があります。川合選手は渾身のアタックでタイムを短縮。1分58秒046をマークするも、順位は惜しくも9位。今季初のQ1ノックアウトとなり、A、B両組を合わせた予選の正式結果は17位です。

日曜日(決勝日)の天候は晴。チームは後方のスタート位置を考慮し、早めの2回ピットストップを前提とした、“アンダーカット作戦”を立案。川合選手が最小限のロスで吉田選手につなぎ、後半にジャンプアップを狙います。川合選手は順当なスタートをきり、オープニングラップを17位で終了。4周目に1つ順位を下げ、18位となります。10周目にクラッシュが発生。この日最初のSC(セーフティカー)が導入されます。12周目からピットレーンがオープンとなり、川合選手が作戦通りにピットイン。給油とタイヤ交換のみでピットアウトし、SCの隊列に戻ります。川合選手の順位は23位。店舗メカニックは今回もミスなく給油と4輪のタイヤ交換を行いました。

14周目からレース再開となり、上位がピットに入るたびに川合選手の順位が上がっていきます。レース距離の3分の1が過ぎた17周目に川合選手が2回目のピットイン。吉田選手に交代し、短い給油のみでピットアウトします。コースに復帰した吉田選手の順位は14位。上位の多くはピットインを残しているため、アンダーカット作戦は成功です。毎周のように順位が上がり、9周後に2位へ。トップとの差は約6秒で、優勝も狙える位置です。36周目、アクシデントにより2回目のSC導入。上位の間隔はリセットされ、41周目からレース再開となります。吉田選手は40周目、先行車との距離を縮めるためにシケイン進入でブレーキを遅らせますが、挙動を乱してコースアウト。5位にドロップします。残りの周回数は10周弱。吉田選手は挽回しようと必死にプッシュし、48周目に#88ウラカンをパス。4位に上がったところでチェッカーを受けました。表彰台を逃してしまったことは残念ですが、予選17位からの13台抜きは胸を張れる結果。レース後、スタッフはお互いの健闘を称え合いました。



決勝結果 (GT300)

#52 埼玉トヨペット Green Brave GR Supra GT
(吉田広樹/川合孝汰)

決勝：4位 (49周、1時間57分49秒448)
予選：17位 (Q1A組9位、1分58秒046)



DRIVERS VOICE

吉田 広樹 選手



(予選後) 意外と悪くないかなと思っていたのですが、予選結果は良くなかったので、結構厳しいレースになるだろうという心情です。自分たちが足りなかったところを真摯に探さないといけませんね。午前中のフィーリング、バランス的にもっとこうしたい、あしたいというのはありましたが、去年までやっていたセットに戻しただけなので、悪い方にはいってないと思います。順位が順位なので、思い切った作戦もとれますので、前向きな部分を見つけて頑張っていきたいと思います。

(決勝後) 再スタート時、周回遅れのクルマが前にいました。それをストレートで抜きたかったので、ピッタリつこうと思い、ブレーキを強くかけすぎたのが飛び出してしまった原因だと思います。2位になれた可能性もあったのですが、自分のミスで情けないです。エンジニアが完璧な作戦を考えてくれ、メカもその通りに作業してくれて、孝汰もそれに合わせた走りをしてくれました。チームを引っ張っていかなければならない自分の立場では、やってはいけないミスだったと思います。

川合孝汰 選手



(予選後) ミスというミスはなかったのですが、アタックをまとめられたわけではないので、もったいなかったと思います。1回目のアタック中、2コーナーで突っ込みすぎてしまい、クリップにつくことができませんでした。2回目のアタックでタイムを更新できたのですが、Q1を通すほどのタイムアップができず、チームには申し訳ないと思っています。明日は厳しいレースになると思うので、作戦で前に出る方法がしっかりとまるような方向性を持っていければと思っています。

(決勝後) 予選順位から考えればいい結果。これまでの流れを変えられたと思います。近藤さんが考えてくれた作戦がすごく良かったのですが、SC先導中にギア抜けして飛び出してしまったのが悔しいです。どちらのドライバーにもミスはありましたが、最小限のところで終えられたと思います。1回目のSCのタイミングが予想通りだったので、作戦通りいけました。自分のスティント中、ヒヤッとする場面も多かったのですが、もう少し、余裕をもって走れるようにしていきたいと思っています。

GT300 決勝結果

順位	車名(車両)	周回数
1位	Studie BMW M4 (BMW M4 GT3)	49
2位	マッハ車検 エアバスター MC86 マッハ号 (トヨタ 86 MC)	49
3位	リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R (日産 GT-R NISMO GT3)	49
4位	埼玉トヨペット GB GR Supra GT (トヨタ GR Supra GT)	49
5位	Weibo Primez ランボルギーニ GT3 (ランボルギーニ ウラカン GT3)	49
6位	BUSOU raffinee GT-R (日産 GT-R NISMO GT3)	48

天候：晴 路面：ドライ ※トップ6まで(出走26台)

チームランキング GT300

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1位	56	KONDO RACING	40.5
2位	7	BMW Team Studie×CSL	24
3位	10	GAINER	22.5
4位	5	Team MACH	20.5
5位	34	BUSOU Drago CORSE	20
6位	18	TEAM UPGARAGE	19.5
10位	52	埼玉トヨペット Green Brave	14.5

※トップ6まで



PARTNERS



アルパインマーケティング株式会社



株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



埼玉スリーボンド株式会社



株式会社西武ライオンズ



大和ラチエーター工業株式会社



株式会社 TAN-EI-SYA WHEEL SUPPLY



株式会社ドーム



株式会社日本ビューテック



Mechanix Wear LLC

第4戦は8月6日～7日 富士スピードウェイ(静岡県)